

姉の言葉

私には五歳年上の姉がいる。姉は勉強も運動も人付き合いも上手でとても器用だった。そのような姉を羨ましいというより尊敬していた。でも、中学生になった頃、姉妹なのに姉にはできて、どうして私にはできないのだろうかと思ってしまう。惨めさを噛みしめ勝手に悲しんでいた。その反面、自分よりできない人がいると安心する心の小さな人間だった。人と比べられることが大嫌いなはずなのに、そうすることで心の虚しさを埋めていた。つまり、人と比べることでは自分の存在価値が見出せないでいたのだ。

このような私は、当然人とのコミュニケーションが上手くいかなく学校に馴染めなかった。それも保育園から中学まで少人数でずっと同じ顔ぶれという同じ状態で。その上、先生も「姉さんは生徒会をやったり世渡り上手だったのに。」と、追い打ちをかけてきた。私は姉と比較されて学校へ行くのが辛かった。

三年生の夏休み、高校への進学不安を姉に相談した。「また、高校でも馴染めなかったらどうしよう。」と。すると、姉は「都には私にない良い所がたくさんあるよ。それを見てくれている人が居るから大丈夫。」と。この瞬間苦しかった呼吸がスーッと楽になった。今まで自分には良い所がなく駄目な人間と否定ばかりしてきた。でも、私は私。素直に「今のままでいいんだ。」と思えた途端、心のもやもやが晴れてスッキリした。

人の価値は人それぞれ十人十色なんだから、比べられるものではない。あの日以来、自己肯定ができるようになった。すると出会った人の良い所が認められるようになり、心が優しくなれた。俳句甲子園でディベートで闘う時も、大学受験のときも「都ならできる。大丈夫。」の言葉に背を押され最善の結果が出せた。自信をもって気持ち一つで生まれ変わったように生き生きと生きられるものだと思った。今度は、姉を支えられるほどの人になりたい。